



Taiyō

An International, Peer-Reviewed, Refereed, Open Access e-Journal
www.taiyoejournal.com

ISSN: 3048-8141 (Online)

DOI: 10.5281/zenodo.14773539

日本社会における縁起物とその社会的機能

ボコット.リテーカー、
セエイク.アジャハール
博士課程
ビッショ.バロティ大学
日本学科

ritumatel3@gmail.com, skajahar000@gmail.com

はじめに：縁起物は、日本文化における重要な概念で、人生に幸運や財産、有益な人間関係を引き寄せると信じられている物、お守り、護符を指す。「縁起物」という用語は、文字通り「幸運のお守り」または「幸運のお守り」と翻訳され、これらの物は、ポジティブなエネルギーを呼び起こすために贈り物として贈られたり、個人の所有物として保管されることがよくある。縁起物は、小さな置物、コイン、装飾品など、さまざまな形をとることができ、縁起の良いシンボル、色、または文字で飾られていることがよくある。縁起物を所有したり贈ったりすることで、人々は人生に幸運、繁栄、幸福をもたらし、他の人との有意義なつながりを育もうとする。日本社会では縁起物の存在は古代から始まって、主に人守りと良い運を受け取るという考えで日本社会には普及されて現在も多く見られている。この勉強では伝えたいのは日本の欠かせない縁起物の歴史とそれぞれの役割のことである。

研究ノート：縁起物、文化、日本

1. 日本社会には達磨人形の役割：達磨人形 は日本の伝統的な文化における、1つの人気を持つ人形のことである。達磨の漢字を基にしてその意味を説明すると、運、富 (luck, fortune)になることが多い。達磨人形は仏教の祖師禪

を中国に紹介した達磨大師から由来したと言える。達磨大師は旅行中に洞窟の中で休みを取りながら瞑想すると決心した。そう言う事件から達磨の概念が発生したと言える。瞑想にわたる全ての9年間は目を閉めずに、ずっと壁を凝視して時間を過ごすことがあった。瞑想による悟りへの要求が強くあったので、後に、達磨大師の体が徐々に消え亡くなったと言える (Hiroshi, 2024)。

他の議論によると、9年間の瞑想中に、達磨大師は7年に寝てしまった。こう言う事件で、彼は大変怒って、また、眠られないように、自部自身の臉をナイフで切ってしまったと言える。もっとも、その臉は下に落ちてから、土と混ぜ合わせて、そこから茶の木が生えると言われた。この概念から説明があるのは、“茶は人間の体の目を覚まし続けるのを助ける”。達磨人形の使い方には3つの心理がある。1つは将来の目的で、2つは未来の行動、3つは未来の成果である。日本人が達磨人形を買った後で、その人形の主に、右側の目を描いて、精神を上げる習慣があると言われている。決心した目的は1年のうちに得た後、左側の目を描いて、その人形を焼ける習慣がある。目的は1年のうちに完成しなかったら、その目的を採用するため、もう1つの達磨人形を買う。赤い達磨人形を使う背後には、天然痘の神様を納めるまたは、その病気を治癒ための信じ方ある (Hiroshi, 2024)。

2. **日本社会には七福神の役割**：日本伝説による”七福神”は幸運を齎す7人の神様のことである。七福神の漢字を説明すると、七は7、福は lucky, 神は god で一緒に「7 lucky gods」として全日本に知られている。七福神の中では多くの伝説が、仏教、神道そして中国の伝統から由来したと言われている。日本文化ばかりか多くの文化における幸せな数として”7”の使いが見られている。中国における7は平和と統一の意味を表す。日本文化には、7の役割がおめでたいなので、”七夕”、“生まれた子供の7日をお祝い”、“

仏教を基に亡くなった人の 7 日を追悼式など色々な習慣に優先を上げるのが多い(Yoshida, 2024)。

七福神の中では 3 つの神様「弁財天、大黒天、毘沙門天」は大乘仏教を基にして中国から日本に伝来した。でも、実際の起源はインドからである。そして、実際の中国で生まれ、日本に伝来したのは 3 つの神様「福祿寿、布袋孫、寿老人」で、日本国の神様は恵比寿である。古代には、恵比寿と大黒天神様は産業と貿易の優高さの印として商人たちは祈りし始めた。そして、弁財天は芸術のため、福祿寿は科学などに使われていた。七福神の伝説は 15 世紀頃、日本文化に根強さがあって、19 世紀頃、人気を持って全国に広まった(インターナショナル et al., 2015)。

縁起物としての役割：日本人にとって七福神は縁起物として昔から現在も大きな役割を持ち続けている。それらは次の通り－ あ) 恵比寿－産業に豊かさを求めた神様である(日本)、い) 福祿寿－知識、運、長生を求めた神様である(中国)、う) 布袋孫－幸せさ、良い運を求めた神様である(中国)、え) 寿老人－長寿の神様である(中国)、お) 毘沙門天－戦争と勝利を求めた神様である(インド)、か) 大黒天－農業、豊かさ、通商の神様である(インド)、き) 弁財天－金融的な運、芸術、音楽の神様である(インド)。この七福神は一緒に宝船に乗っている姿で見られ、船の頭は竜、上に鶴、下に亀の形をしている。3 つの生き物が縁起の良いシンボルである(Cartwright, 2013)。

3. **日本社会には千羽鶴の役割**：日本文化には大きな特徴を持っている千羽鶴は数千の鶴が折り紙で作って全部は糸で繋がることである。日本伝説には鶴はおめでたい生物として信じられている。鶴は千年間も生きられるので、日本文化に数千枚ぐらい作られるのがこの縁起物の大きな特徴である。良い元気さ、楽しさ、長時間の印として昔から千羽鶴は取り上げられている。日本



には100年間を生きるために、お寺と神社には千羽鶴を上げられる習慣がある。また、入院されたら、病人の元気さのため、千羽鶴を使うことが見られている(空弥, 2022)。

ある伝説による数千の千羽鶴が折り紙で作られたら、だれでも神様のおかげで、長時間生きることができる。そして、良い運が得ると考えられている。ある実際の歴史による千羽鶴の概念は1945年の広島県に起こった爆発の時大きな人気を持ち始めた。その時、ある2年歳の女の子「佐々木禎子」は原爆症の白血病(leukemia)と一緒に戦っていた。彼は千羽鶴の伝説による感動して、自分の元気を祈りに千羽鶴を作り始めた。でも、数644枚の千羽鶴が作った後、亡くなってしまった。残っていた千羽鶴は彼の家族と友人が完成して済ました(Yasuko, 2024)。

4. **日本社会には招き猫の役割**：主に座っている姿で、ある1つの手に玉を持ちながらお客様に対する招くと言うジェスチャーがあって、『招き猫』という言葉が発生した。あ) 右手を挙げた招き猫の姿はお金えを得る印として、一方で、左手を挙げ他の姿は多くのお客様に迎える印として表している。また、左手は商売のため、右手は家のため使う人が多いである。い) 白い招き猫は幸せな、良い物が齎すとして、う) 金色の招き猫が富と繁栄を齎すとして、え) 黒い色の招き猫が悪霊を追い払うとして、お) 赤い色の招き猫が愛恋と人間関係の成功として、か) 緑色の招き猫が元気を齎すとして信じられている(Saunders, 2021)。

招き猫に関する由来は様々あって、その中でもっとも信じられているのは、17世紀の頃、東京の佐多賀屋と言う座禅寺には、貧乏な僧がペットの猫と一緒に住んでいた。ある日、彦根地域の将軍の井伊直孝は狩猟中突然の嵐が落ちて来たので、寺の近くにある大きい木の下に物陰した。その時、寺からペットの猫が出て手を将軍の向けに上げて、招くように姿をした。将軍はそれ

を見ながら、好奇心の気持ちで木の下から出て、猫を良く見るために寺の方へ歩き始めた。彼がそうしたようにすると、何分前に立った木に1つの落雷が落ちて、全部が滅ぼした。このように將軍は自分の命を助けてくれたその猫と寺に対するありがたい気持ちを見せてから、寺の恩人になって、修理した。後に、その猫が亡くなった後、特別な墓を作り挙げた。こう言う歴史があつて、招き猫の概念が日本に生まれたと信じられている。他の伝説によると、ある店の人は一匹の空腹の猫に食べ物をやった。そこで、その猫が店の人に感謝を見せて、店の前に立って、手を挙げてお客様に招くように姿を始めた。そのことから招き猫が日本社会におまじないとして人気を持つことが考えられている (Saunders, 2021 and Killian, 2024)。

5. **日本社会にはてるてる坊主の役割**：日本の伝統的な人形の中でてるてる坊主は1つで、縁起物としても役割が持っている。この人形に呪術の力があつて、良い天気を齎すとか雨の日から防ぐとか雨の日を止めることに信じて、古代から農民が作物を植える時、良い天気を齎すために神様に対する窓にこの人形を掛ける習慣がある。てるてる坊主という言葉の説明すると、てるは動詞で、ぴかぴか日のことを表して、坊主は禿げ頭の小さな男の子の仏教僧侶のことを表している。日本社会には江戸時代から今までこのてるてる坊主の習慣は主に「良い天気を祈る」ために使われている。子供たちは特別な日例えば、学校のピクニックまたは旅行日に対しててるてる坊主を掛けることが多い (staff, 2019)。

縁起物として人気を持っているてるてる坊主の歴史または由来は曖昧である。てるてる坊主の時、歌われている歌の最後の歌詞から伝わっているのは、良い天気僧侶は大名に対して良い天気を齎すと言う約束した。でも、その約束が守らなかったのもので、大名は処罰しに僧侶の頭を体から斬首して、頭を白い布で包んで外に掛けたとたんに日が出て来た (Kazemi, 2022)。

6. **日本社会には千羽鶴の役割:** 日本文化には大きな特徴を持っている千羽鶴は数千の鶴が折り紙で作って全部は糸で繋がりのことである。日本伝説では鶴はおめでたい生物として信じられている。鶴は千年間も生きられるので、日本文化で数千枚ぐらい作られるのがこの縁起物の大きな特徴である。良い元気さ、楽しさ、長時間の印として昔から千羽鶴は取り上げられている。日本には100年間を生きるために、お寺と神社には千羽鶴を上げられる習慣がある。また、入院したら、病人の元気さのため、千羽鶴を使うことが見られる(Staff, 2023)。

ある伝説によると数千の千羽鶴が折り紙で作られたら、だれでも神様のおかげで、長時間生きることができる。そして、良い運が得られると考えられている。ある実際の歴史による千羽鶴の概念は1945年の広島県で起こった爆発の時大きな人気を持ち始めた。その時、ある2年歳の女の子「佐々木「呉子」は原爆症の白血病(leukemia)と一緒に戦っていた。彼は千羽鶴の伝説に感動して、自分の元気を祈りに千羽鶴を作り始めた。でも、数644枚の千羽鶴を作った後、亡くなってしまった。残っていた千羽鶴は彼の家族と友人が完成して済ました(Keller & Global, 2022)。

結論: 日本文化に関して縁起物言う言葉は日本文化ばかりか、日本社会に至るまで、大きな役割を果たしている。縁起物は日本の社会と文化に大きな影響を与えており、迷信、精神性、社会関係に対する日本の根深い信念を反映している。縁起物は、社会的な絆を強め、感謝の気持ちを表し、良好な人間関係を育むための贈り物としてよく交換される。この習慣は、共同体意識と相互支援を育む。縁起物への信仰は、日本の迷信と精神性に根ざしている。人々はこれらのお守りが幸運、繁栄、そして保護をもたらすと信じており、日常生活における精神性の重要性を強調している。日本国は古代から現在までも、自然の豊かさで育って、すべての儀式とか祭りなどの始まりは自然を狙って、祈りすることが多くある。縁起物は、何世紀も遡る歴史



を持つ日本の文化遺産の不可欠な部分である。縁起物は伝統的な祭り、儀式、式典と関連付けられることが多く、日本の文化的伝統の保存に役立っている。縁起物の生産と販売は、特に観光産業において日本経済に貢献している。観光客は縁起物を土産として購入することが多く、地元の企業や職人を支えている。縁起物は、子供たちに日本の文化、伝統、価値観を教える役割も果たしている。親や祖父母が縁起物を若い世代に受け継ぎ、文化的知識や遺産を伝えることもよくある。世界に存在するどの国と同じく、日本さえ自然と天災地変と戦って形成された国の例である。大昔から今日まで縁起物は日本人の心と繋げて、農作、商売、家族の守り、愛情、子供の元気さ、妊性などの多くの場合に使われている。こんなに大きく縁起物を使う背後には、自然と人間の精神的な平和の信じの関係があるに違いない。上に述べた縁起物の他にもいくつかの縁起物がある。例えば、赤べこ、絵馬、おせち料理、松などがユニークな縁起物として特徴を持っている。

● 参考文献：

- インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ. (2015 年 3 月 2 日). 著: 改訂第 3 版 イラスト日本まるごと事典. 鈴木 哲.
- staff. (n.d.). てるてる坊主・照々法師・日和坊主. 日本玩具博物館. Retrieved December 18, 2024, from <https://japan-toy-museum.org/archives/167>
- *HISTORY OF JAPANESE KOINOBORI CARP-WINDSOCK, STREAMERS, FISH KITES.* (n.d.). Retrieved December 18, 2024, from <https://koinobori-japan.jp/koinobori.html>
- 七福神とは？ご利益や見分け方をわかりやすく解説 / 大阪・和歌山のおでかけ情報 *otent* (おてんと). (n.d.). Retrieved December 18, 2024, from https://otent-nankai.jp/category/topic/230830_shichihukujin_962
- 七福神の由来・七福神の紹介. (n.d.). Retrieved December 18, 2024, from <http://www.kotobuki-p.co.jp/fukujin/shichi.htm>



-
- 折り鶴や千羽鶴に込められた意味とは？ / HALMEK up. (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from <https://halmek.co.jp/qa/786>
 - 招き猫とは。江戸から全国に広まった縁起物. (n. d.). 中川政七商店の読みもの. Retrieved December 18, 2024, from https://story.nakagawa-masashichi.jp/craft_post/121878
 - ホントは怖い？「てるてる坊主」の真実とは？. (2016, June 22). <https://akin-do.com/teruterubouzunoshinjitsu/>
 - 千羽鶴はどうして折るの？ 千羽鶴の由来を紹介. (2017, July 26). 各国のお土産事情あれこれ. https://omiyage.co.jp/blog/how_to/senbazuru/
 - 空弥. (2022, April 20). なぜ日本人は千羽鶴を折るのか？由来は？なぜ鶴なのか / 身近にある日本. 身近にある日本. <https://kuya-nippon.com/%e5%8d%83%e7%be%bd%e9%b6%b4%e3%81%ae%e8%b5%b7%e6%ba%90/>
 - てるてる坊主の「やってはいけないこと」とは？ 由来や作り方・吊るし方も解説 / マイナビニュース. (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from <https://news.mynavi.jp/article/20230417-2484596/>
 - 七福神とは？見分け方やご利益、由来をご紹介します. (n. d.). ホトカミ. Retrieved December 18, 2024, from <https://hotokami.jp/articles/169/>
 - 折り鶴と「原爆の子の像」について-広島市公式ホームページ / 国際平和文化都市. (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/9204.html>
 - 招き猫とは？由来や種類、ポーズ&色別でご利益を解説 / SKYWARD+ スカイワードプラス. (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from https://skywardplus.jal.co.jp/plus_one/other/manekineko/
 - 招き猫の意味と歴史：右手・左手、色の違いを解説！幸運を呼び込む選び方とは？. (n. d.). 日本工芸堂（想いをつなぐ、工芸専門ギフトショップ）. Retrieved December 18, 2024, from <https://japanesecrafts.com/blogs/news/manekineko>
-



-
- 達磨大師 (だるま) の歴史・伝説・面壁九年の逸話を紹介. (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from <https://true-buddhism.com/history/daruma/>
 - 千羽鶴はどうして折るの？ 千羽鶴の由来を紹介. (2017, July 26). 各国のお土産事情あれこれ. https://omiyage.co.jp/blog/how_to/senbazuru/
 - *Do you really need 1,000 cranes? How do you dispose of them? The meaning, wishes, and history of “1,000 cranes” and simple questions explained [Life’s Seasonal Almanac] All About.* (n. d.). Retrieved December 18, 2024, from https://allabout-co-jp.translate.goog/gm/gc/496874/?_x_tr_sl=ja&_x_tr_tl=en&_x_tr_hl=en&_x_tr_pto=sc&_x_tr_hist=true#google_vignette
 - だるまの意味や由来とは？目の入れ方や高崎だるまなどの種類、ゆかりあるスポットなど / じゃらんニュース. (2024, January 21). じゃらんニュース. <https://www.jalan.net/news/article/607970/>
 - Killian, M. (2024, January 3). *Maneki-neko: A Guide to Japan’s Beckoning Cat*. Globalkitchen Japan. <https://www.globalkitchenjapan.com/blogs/articles/maneki-neko-a-guide-to-japans-beckoning-cat>
 - Saunders, R. (2021, May 3). *The fascinating history behind the popular ‘waving lucky cat.’* <https://www.nationalgeographic.com/history/article/the-fascinating-history-behind-the-popular-waving-lucky-cat>
 - Kazemi, A. (2022, June 15). *Japanese Traditions: Teru Teru Bozu-Savvy Tokyo.* <https://savvytokyo.com/japanese-traditions-teru-teru-bozu/>
 - Keller, K. A., & Global, A. (2022, April 20). *Sadako and the Thousand Paper Cranes / Arizona International.*



Taiyō

An International, Peer-Reviewed, Refereed, Open Access e-Journal
www.taiyoejournal.com

ISSN: 3048-8141 (Online)

DOI: 10.5281/zenodo.14773539

<https://international.arizona.edu/news/sadako-and-thousand-paper-cranes>

- Cartwright, M. (2013, June 24). *Seven Lucky Gods-World History Encyclopedia*. <https://www.worldhistory.org/Shichifukujin/>